【道徳性の芽生えを培う保育の進め方】

1　乳幼児期における道徳性の発達

◇ **幼稚園教育要領**（平成 20 年３月）

第２章ねらい及び内容

人とのかかわりに関する領域「人間関係」

〔　他の人々と親しみ，支え合って生活するために，自立心を育て，人とかかわる力を養う。〕

１　ねらい

(1)　幼稚園生活を楽しみ，自分の力で行動することの充実感を味わう。

(2)　身近な人と親しみ，かかわりを深め，愛情や信頼感をもつ。

(3)　社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

〔内容の取扱い〕

(4)　道徳性の芽生えを培うに当たっては，基本的な生活習慣の形成を図るとともに，幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気付き，相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし，また，自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に，人に対する信頼感や思いやりの気持ちは，葛藤やつまずきをも体験し，それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。

幼児は，集団生活の中で，遊び等を通じて，自分と他者の調和を図る態度や行動を次第に身に付けようとする姿を見せる。それを引き出す環境を整え，さらに伸ばすよう，様々な役割を果たして幼児とかかわっていくことが，教師に求められる。また，幼児期は，自分の行動について客観的に考えることや，善悪の判断がまだできにくい時期であり，親や教師から認められたり，褒められたりするとよいことなのだと考え，逆に注意されたり，叱られたり，拒否されたりすると悪いことなのだと次第に知るようになる。

したがって，教師は，家庭と連携しつつ，適切な働き掛けを行うことが必要になる。幼児は，周りの大人のこうした様々な対応により，「してよいこと」「してはわるいこと」などを判断しながら学んでいく。

幼稚園では，これら全体を踏まえて，好ましい道徳的な判断力や，善悪に対する好悪の感情の基盤となる道徳性の芽生えが培われるよう，繰り返し丁寧に指導する。

※ 道徳性の発達：他者や社会と調和した形で自分の個性を発揮できるようになること。

1）他者と調和的な関係を保ち，自分なりの目標をもって，人間らしくよりよく生きていこうとする気持ち（道徳性の動機づけとして重要）

2）自他の欲求や感情，状況を受容的・共感的に理解する力（外の世界を知的にとらえる力）

3）自分の欲求や行動を自分で調整しつつ，共によりよい未来をつくっていこうとする力（幼児期に調整する力が増大）

この基盤を培う時期：幼児期